

インフォシス、シンガポールでの存在感を高めるべく、 現地で 300 人雇用創出を約束

テクニカル技能アクセレレータ (TeSA) 企業主導の研修プログラムで、情報通信メディア開発庁 (IMDA) と提携し、サイバーセキュリティ、ソフトウェア・エンジニアリング、クラウド・エンジニアリングにおける需要の高い技能をシンガポール人に身に着ける目的

シンガポール、2022 年 7 月 26 日

次世代デジタルサービス・コンサルティング世界大手の[インフォシス](#) (NSE, BSE, NYSE: INFY)は向こう 3 年間で、シンガポールで社員 300 人を様々な役割に採用すると約束しました。シンガポール政府が進めている新卒・中途採用の専門家向け雇用機会創出プロジェクトを支援するため、インフォシスは情報通信省 (MCI) 傘下の法定機関、IMDA と協力してきました。

インフォシスは、シンガポールで熟練した即戦力のある人材を創出するために、テクノロジーの専門家だけでなく、技術・非技術の経歴を問わず PMET (専門家、マネージャー、役員、技師) と呼ばれる成熟した専門職・経営者層を雇用し、さらにポリテクニク (高等職業訓練学校) や大学から新卒者の採用することを目指しています。インフォシスは、テマセク・ホールディングスとの合併会社でシンガポールに拠点を置く [Infosys Compaz \(iCompaz\)](#) と共にこうした人材を IMDA の TeSA 企業主導研修 (CLT) プログラムの一環として雇用します。

インフォシスはその強力な研修・教育インフラのおかげで、トップレベルの技術人材を、従来型のテクノロジーに留まらず長年にわたり採用してきました。また従業員には、様々な業界やワークストリームで従来型の仕事から未来型のデジタルジョブへと変革を遂げるための新しい道を提供しています。

インフォシスの執行副社長、Shaji Mathew 氏は、「当社は TeSA CLT プログラムで IMDA と提携することをうれしく思っています。同プログラムにより、当社の現地人材受け入れプロセスの実施が可能となり、ローカライゼーションや継続学習戦略の導入に寄与します。世界がコロナ後の経済的現実の舵取りにおいて大規模なデジタル受け入れを迫られる局面でのシンガポール政府との協業は、インフォシスのデジタル専門性を高度に熟練した人材の育成に活かすという投資や使命感を浮き彫りにしています。シンガポールで 300 人を現地採用する計画は、当社の世界規模でのローカライゼーシ

ンへの使命を再確認するものです。顧客のデジタル変革と歩調を合わせ、当社がシンガポールでの存在感を高めていくことを楽しみにしています。」と語りました。

IMDA の副最高経営責任者、Kiren Kumar 氏は、「サイバーセキュリティ、ソフトウェア・エンジニアリング、クラウド・エンジニアリングを含む需要の高い技術的役割に、シンガポール人を起用・訓練するという強い提携関係とコミットメントに対してインフォシスに感謝申し上げます。デジタル化は経済全体で加速しており、新興技術の任務の需要は増加の一途をたどっています。当社の TeSA プログラムは、私たちのエコシステム全体で必要技能を満たす職場内訓練を提供するため業界指導者らと密接に協力することが狙いです。」と述べました。

連絡先

マーケティング本部長 安藤 jo_ando@infosys.com / 09010450448